

(資料 1)

## 令和2年度 事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

## 1. 会員状況

会員種別	2020年度			参 考	
	2020. 4. 1 現在数 (A)	2021. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2020. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	18	20	2	18	2
終身会員	195	185	△10	180	5
正会員	2,822	2,770	△52	2,812	△42
学生会員	845	805	△40	858	△53
(合計)	3,880	3,780	△100	3,868	△88
賛助会員	230社 (312口)	222社 (304口)	△8社 (△8口)	230社 (312口)	△8社 (△8口)
特殊会員	71社 (92口)	70社 (89口)	△1社 (△3口)	70社 (89口)	0社 (0口)

## 2. 定款・規則等の制定・改正

- (1) 音響規格委員会規則 (制定) (2020. 6. 26)
- (2) 日本音響学会が日本産業規格(JIS)の原案作成団体となる場合の  
手続きに関する運用指針(改正) (2020. 6. 26)
- (3) 著作権規則(改正) (2020. 10. 20)
- (4) 会費の特例制度に関する内規(改正) (2020. 11. 17)

## 3. 機関誌の刊行

- (1) 日本音響学会誌  
本期間は毎月1日(1号は12月25日)を発行日とし、次の12冊を刊行した。

76巻4号～77巻3号(2020年4月～2021年3月)

巻 号	76巻									77巻			計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
本文ページ	48	68	44	56	54	74	54	74	66	102	64	62	766	
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言	1								2			3	
	音叉	2			2			2					6	
	特集にあたって							2					2	
	総説							7					7	
	論文		15 (2)	10 (1)	6 (1)	8 (1)	10 (1)	25 (3)	16 (2)	23 (2)	31 (3)	17 (2)		161 (18)
	技術報告												8 (1)	8 (1)

主 な 論 文 ・ 記 事	研究速報	4 (1)		4 (1)	4 (1)					4 (1)				16 (4)	
	解説 (小特集を含む)	37 (5)	43 (7)	26 (4)	34 (6)	28 (4)	54 (8)	24 (4)	37 (6)	30 (4)	60 (30)	29 (4)	45 (7)	447 (89)	
	会議報告 (シンポジウム/活動報告)											6 (2)		6 (2)	
	連載企画								2					2	
	研究発表会報告											6		6	
	選奨記事・紹介記事					13								13	
	書評						1						1	2	
	博士論文紹介										1			1	
	コーヒーブレーク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	75 巻総目次									4					4
	AST 目次		2		2		2		2		2		1	11	
	AST abstract		2		2		2		3		2		2	13	
	学会記事等	2	2	1	3	2	2		2	2	1	3	2	22	
	編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
会告	19	27	25	11	13	71	31	39	31	15	65	13	360		
広告	9	9	9	11	9	9	10	10	9	9	9	9	112		
発行部数	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4250	4250	4250	4250	51400		
小特集タイトル		※1		※2		※3				※5		※6			
特集号タイトル								※4							

注 1) 欄中の ( ) 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 空中超音波センシングと応用技術

2 スポーツと音

3 ホール音響設計の最近の動向

4 超音波特集号

5 音響研究者のキャリアパス

6 音にかかわる多感覚統合の世界

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2020年5月、7月、9月、11月、2021年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

なお、AST誌への投稿システムをJSTの協力により、“ScholarOne”システムを利用した。

Vol. 41 No. 3~Vol. 42 No. 2 (2020年5月~2021年3月)

Vol.		Vol. 41				Vol. 42		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		104	76	102	130	72	52	536
主 な 論 文 ・ 記 事	Foreword							
	Paper	8 (1)	53 (5)	52 (5)	43 (5)	45 (4)	30 (3)	231 (23)
	Tutorial				12 (2)			12 (2)
	Technical Report	24 (3)		15 (2)	6 (1)	12 (2)	6 (1)	63 (9)
	Translated Letter				4 (1)			4 (1)
	Acoustical Letter	8 (2)	19 (5)	32 (8)	49 (13)	11 (3)	11 (3)	130 (34)
	Invited Tutorial							

Invited Review	61 (1)						61 (1)
Invited Paper							
和文誌英文目次	2	2	2	2	2	3	13
和文誌論文等内容梗概	1	2	1	1	2	2	9
Vol. 41 総目次				13			13
特集号タイトル				※1			

注) 欄中の ( ) 内数値は編数。

※1 Special Issue on Ultrasonics

- (3) 科学技術振興機構(JST)が主催する「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)」において、日本音響学会誌及び Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。なお、日本音響学会誌の J-STAGE での公開は 6 か月後としている。

#### 4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2020年3月16日、17日、18日の3日間、埼玉大学を会場として準備を進めていたが、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染防止の観点から、実行委員会、学会役員会で審議を行い、やむなく中止の判断をした。

講演原稿の提出後の中止であったため、講演論文集は通常と同じく作成し、頒布した。なお、春季研究発表会では、講演論文集の発行をもって講演発表が行われたとみなした。

講演申込件数等は次の通りであった。

申込件数は528件、このうち、スペシャルセッションは9テーマ、「end-to-end 音声合成とその周辺」「聴覚の受動的注意」、「アコースティックイメージング (AI) と人工知能 (AI) の融合深化」、「住宅の音環境性能評価の動向」、「音楽制作と音響信号処理」、「高臨場感オーディオの実用化—国際標準化の動向」、「ユーザインタフェースのサウンドデザイン」、「音バリアフリーのための支援システム・支援デバイス」、「スポーツと音 その5」であった。

また、春季研究発表会で予定したイベントは全て中止となった。

- (2) 秋季研究発表会は、2020年9月9日、10日、11日の3日間、遠隔会議システム (Zoom) と Learning Management System (LMS) の Moodle を利用して開催した。

申込件数は397件、このうち、スペシャルセッションは5テーマ、「楽器の音響学—民族楽器を中心に—」、「音のデザインのための主観評価法」、「高臨場感オーディオとユーザインタラクション」、「スポーツと音 その5」、「屋外拡声システムのニーズと研究シーズ」で実施した。なお、2日目の午後に「音響学×人工知能—新しい音へのアプローチ」をテーマとする特別企画を2名の講演者を招いて実施した。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。

なお、賛助会員のポスター展示を実施し、12社が展示を行った。

また、2020年秋季研究発表会において、オンライン開催を確実に実施するため、広報・電子化委員会(荒木 章子委員長)の協力を得て、2020年秋季研究発表会遠隔開催実行委員会(岩谷 幸雄委員長)を組織した。

同研究発表会の期間中に参加者には、実施方法等に関するアンケートを実施したが、好評であった。

- (3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音響教育	5	8
	超音波/水中音響	35	24
	超音波/水中音響 (ポスタ)	29	8
	熱音響技術	8	8
	電気音響	98	87
	騒音・振動	21	23
	建築音響	18	33
	建築音響/騒音・振動	7	

アコースティックイメージング	10	6
聴覚/聴覚・音声	11	37
音声コミュニケーション	14	17
音声コミュニケーション/聴覚・音声/音支援	29	
音 声 A	57	
音 声 B	58	
音声A/B		86
音 楽 音 響	14	12
音支援(音バリアフリー)	3	
音声コミュニケーション/音支援(音バリアフリー)		4
音のデザイン	6	8
スペシャルセッション (春季9テーマ)	54	-
スペシャルセッション (秋季6テーマ)	-	36
計	528	397

#### (4) 技術動向レビューの実施

2020年秋季は、2020年9月9日に「産業界における音響技術」をテーマとして実施した。

#### (5) ビギナーズセミナーの開催

活性化・若手育成委員会(峯松 信明委員長)では、学生・若手フォーラムと協力してビギナーズセミナーを開催している。

2020年春季研究発表会で開催予定であったビギナーズセミナーは、ASJ beginner's seminar in VR」と称し、学生・若手フォーラムが開催した。テーマは、「私の研究のすゝめ方」とし、インターネット上のバーチャルイベントの形式で実施した。

2020年秋季は、「Web会議システムを支える音響技術超入門」をテーマとして、9月9日に開催した。

#### (6) 研究発表会ポータルサイト

2020年秋季研究発表会遠隔開催実行委員会では、研究発表会ポータルサイトを作成した。ポータルサイトでは、発表スケジュール、特設サイト、イベント・行事等の案内を掲示した。さらに、ポータルサイトから「User ID」、「パスワード」入力後、研究発表会「オンライン会場」への移動ができるような仕組みを設けた。

#### (7) 遠隔開催実行委員会の開催

2020年秋季研究発表会遠隔開催実行委員会(岩谷 幸雄委員長)は、2020年5月、6月(2回)、7月(2回)、8月、11月の7回、2021年春季研究発表会遠隔開催実行委員会(鶴木 祐史委員長)は、2021年2月、3月の2回開催した。

### 5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	三浦 光	10	118	電気音響、音声、アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	土田 義郎	9	45	アコースティックイメージング、建築音響研究会、音響教育委員会、音バリアフリー調査研究委員会との合同開催分を含む
電気音響	古家 賢一	6	98	聴覚、音楽音響、超音波、音声研究会、音響教育委員会との合同開催の分を含む

音 声	河井 恒	4	165	電気音響, 超音波研究会との合同開催の分を含む
聴 覚	加藤 宏明	7	68	電気音響, 音楽音響研究会, 音響教育委員会との合同開催の分を含む
建 築 音 響	杉江 聡	10	45	騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音 楽 音 響	亀川 徹	8	79	電気音響, 聴覚研究会, 音響教育委員会との合同開催分を含む
アコースティック クイメーキング	長谷川 英之	3	24	超音波研究会, 騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音響教育委員会	河原 一彦	2	17	電気音響, 聴覚, 音楽音響, 騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音バリアフリー	中村 健太郎	1	6	騒音・振動研究会との合同開催分を含む
合 計		60	665	

(2) 騒音・振動, 聴覚, 建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で代行した。

## 6. 国際交流

### (1) 国際会議の開催・準備等

国際音響学会が定めた International Year of Sound 2020 (IYS2020)に協力し, IYS2020 対応委員会(安藤 彰男委員長)を組織し, 実施可能なイベントを開催した。同 IYS2020 は, COVID-19 の影響で 2021 年にも引き続いて実施することとなった。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA), 国際騒音制御工学会(I-INCE)の活動に協力した。

(3) (公社)日本騒音制御工学会と共催して実施する INTER-NOISE 2023 の招致活動に協力し, 日本での開催が決定した。

(4) 西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。

## 7. 音響規格の調査・作成

(1) 当学会が担当する電気音響及び音響一般に関する IEC/TC 29 (国際電気標準会議第 29 専門委員会(電気音響))及び ISO/TC 43 (国際標準化機構第 43 専門委員会(音響))の国際標準の審議及び調査研究等を行い, 必要に応じ JIS(日本産業規格)の原案作成の手続きを行うことを目的とする音響規格委員会(鈴木 陽一委員長)を設置した。

なお, 音響規格委員会は, 常設の委員会として IEC/TC 29 専門委員会(堀内 竜三委員長), ISO/TC 43 専門委員会(倉片 憲治委員長), ISO/TC 43/SC 1 専門委員会(今泉 博之委員長), ISO/TC 43/SC 2 専門委員会(佐藤 洋委員長), ISO/TC 43/SC 3 専門委員会(赤松 友成委員長)を設置する。

(2) 当学会が作成した JIS Z 8732, JIS Z 8734, JIS Z 8739 について, 改正原案作成委員会(橘 秀樹委員長)において原案を作成し, 日本規格協会に提出した。

(3) 当学会で原案作成を行った日本産業規格(JIS)に関して 5 年ごとの見直し作業を行った。

## 8. 調査研究委員会の活動

### (1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所との共同研究により, 「道路交通騒音の予測精度向上に関する研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会(岡田 恭明委員長)が作業を実施した。

### (2) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会(中村 健太郎委員長)において, 聴覚障害者のための会話システムの研究, デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。

- (3) 熱音響技術に関する調査研究  
熱音響技術調査研究委員会（渡辺 好章委員長）において、既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。
- (4) 音のデザインに関する調査研究  
音のデザイン調査研究委員会（高田 正幸委員長）において、製品音、サイン音、サウンドスケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする活動を実施した。
- (5) 非常用屋外拡声システムに関する調査研究  
非常用屋外拡声システムに関する技術調査研究委員会（佐藤 洋委員長）において、伝達用屋外拡声システムの設計・性能等に関する調査研究を行った。
- (6) 軟骨伝導に関する調査研究  
軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会（細井 裕司委員長）において、軟骨伝導応用機器の普及、軟骨伝導音の校正法の規定等に関する調査研究を行った。
- (7) 生物音響に関する調査研究  
生物音響に関する研究の進歩と研究母体の拡大を図り、生物音響学分野の研究成果の発表、情報交換、連絡連携を目的とする生物音響調査研究委員会（力丸 裕委員長）において、調査研究を行った。
- (8) 音声コミュニケーションに関する調査研究  
音声コミュニケーション技術に関連のある研究分野の研究者が活発に議論できる環境の提供を目的とする音声コミュニケーション調査研究委員会（荒井 隆行委員長）において、調査研究を行った。
- (9) 高臨場感オーディオに関する調査研究  
高臨場感オーディオに関連する研究分野において、横断的な議論を行う機会を提供し、当該分野の更なる発展を目的とする高臨場感オーディオ調査研究委員会（安藤 彰男委員長）を設置し、調査研究を行った。
- (10) スポーツ音響に関する調査研究  
音響学とスポーツ競技と音のかかわりやその競技場の音環境に関し、関連する分野の研究所が議論できる場を設けることを目的とするスポーツ音響調査研究委員会（大鶴 徹委員長）を設置し、調査研究を行った。

## 9. 学術委員会関連委員会の活動

- (1) 音響教育に関する調査研究  
音響教育委員会（河原 一彦委員長）では、音響学の教育と教育研究及びその普及を主たる目的として委員会活動を行っている。なお、今年度の「音の科学教室」等のイベントは中止となった。

## 10. 選 奨

- (1) 功 績 賞  
音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第44回功績賞受賞者は、岩瀬 昭雄、嵯峨山 茂樹、山本 誠一の3氏に決定した。
- (2) 日本音響学会論文賞  
音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本会会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌75巻1号～12号、76巻1号～12号並びにAST誌Vol. 40 No. 1～ No. 6, Vol. 41 No. 1～ No. 6に掲載された論文中から優秀な論文を選定した。

第61回日本音響学会論文賞受賞論文（敬称略）

ア. 日本音響学会論文賞佐藤賞

○「路面性状と自動車のバンドパワーレベルの定量的関係」

日本音響学会誌 75 巻 8 号 (2019)  
米村 美紀, 李 孝珍, 坂本 慎一 (東京大学)

イ. 日本音響学会論文賞古井賞

○「Elderly listeners' identification of Japanese long vowel pair 'obasan' and 'obaasan' using pitch and duration」

AST 誌 40 巻 2 号 (2019)

C. T. Justine Hui, 荒井 隆行 (上智大学)

○「Reversal of relationship between impression of voice pitch and height of fundamental frequency: Its appearance and disappearance」

AST 誌 40 巻 3 号 (2019)

内田 照久 (独立行政法人 大学入試センター)

(3) 独創研究奨励賞 板倉記念

音響学に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選定した。

第 16 回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者 (敬称略)

○落合 翼 (日本電信電話(株))

研究名:「マイクロホンアレイ信号処理と音声認識の統合的最適化」

○林 知樹 ((株)Human Dataware Lab./名古屋大学)

研究名:「RNN を用いた音響イベント検出の先駆的研究」

(4) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2020 年春季研究発表会の講演申込者並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選定した。

第 48 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/2020 年春季研究発表会, 1 名)

○落合 翼 (日本電信電話(株))

「音響と映像由来の話者情報を用いたマルチモーダル目的話者抽出の検討」

注)2020 年春季研究発表会は、開催中止となったが、講演論文集は作成したため、選定規則に従って栗屋潔学術奨励賞を選定した。

第 49 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/2020 年秋季研究発表会, 5 名)

○池下 林太郎 (日本電信電話(株))

「分離行列の乗算更新によるブラインド音源分離」

○後藤 耕輔 ((株)竹中工務店)

「減衰密度を用いた残響室法吸音率測定 -低周波域における分布形状の分析-」

○齋藤 佑樹 (東京大学)

「主観的話者間類似度のグラフ埋め込みに基づく DNN 話者埋め込み」

○鶴羽 琢元 ((株)竹中工務店)

「重力方向に弾性率勾配を有する粒子状材料の吸音特性 -吸音面が鉛直または水平な場合-」

○米村 美紀 (東京大学)

「風力発電施設等の騒音に含まれる純音性成分による不快感の評価 -その 2 大きさ感とラウドネス指標の関係-」

(5) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2020 年秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選定した。なお、2020 年春季研究発表会は中止となったため選定しなかった。

第 21 回学生優秀発表賞受賞者（敬称略／2020 年秋季研究発表会，20 名）

田口 史朗(九州大学)，樋口 陽祐(早稲田大学)，松原 圭亮(神戸大学)，湯舟 航耶(東京大学)，川村 海斗(千葉工業大学)，鈴木 裕登(千葉大学)，加茂 佳吾(東京大学)，草野 翼(早稲田大学)，津國 和泉(東京電機大学)，豊島 直(香川高等専門学校)，藤村 拓弥(徳山工業高等専門学校)，内藤 柚菜(千葉大学)，塚原 正人(新潟大学)，原 量子(九州大学)，清水 元貴(同志社大学)，手嶋 優風(同志社大学)，吉田 颯汰(早稲田大学)，兒玉 明日夏(都立産業技術高等専門学校)，後藤 翼(千葉工業大学)，三春 知史(神奈川工科大学)

#### (6) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者，賛助会員所属の個人，グループに贈られるもので，公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。

第 29 回技術開発賞受賞者（敬称略）

##### ○(株)日立製作所

「製造現場や設備の聴音点検を省力化する異常音検知ソリューション「IoT データモデリングサービス」と「設備点検自動化サービス」

川口 洋平，住田 和也，松本 明紘，池永 絵里，光永 さおり，佐々木 麗双，安川 和希，陣内 浩司，小埜 和夫，Harsh Pramodbhai Purohit，田邊 亮，末房 佳小里，遠藤 隆，土肥 宏太，西田 智哉（(株)日立製作所）

##### ○(株)KDD I 総合研究所

「新音楽視聴体験 音のVR」アプリの開発と社会展開

堀内 俊治，新井田 統，服部 元，滝嶋 康弘（(株)KDD I 総合研究所）

#### (7) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので，今年度は次の 12 名を選定した。

第 8 回学会活動貢献賞受賞者

○大田 健紘(日本工業大学) [音楽音響研究委員会の幹事としての貢献に対して]

○大塚 翔(千葉大学) [聴覚研究委員会の幹事としての貢献に対して]

○岡田 恭明(名城大学) [編集委員会幹事としての貢献に対して]

○小山 大介(同志社大学) [超音波研究委員会の幹事としての貢献に対して]

○坂本 修一(東北大学) [編集委員会主査としての貢献に対して]

○坂本 眞一(滋賀県立大学) [熱音響技術調査研究委員会の幹事としての貢献に対して]

○中原 雅考((株)ソナ) [高臨場感オーディオ調査研究委員会の幹事としての貢献に対して]

○西村 明(東京情報大学) [音響教育委員会の副委員長としての貢献に対して]

○松井 健太郎(日本放送協会) [電気音響研究委員会の副委員長・幹事としての貢献に対して]

○森原 崇(石川工業高等専門学校) [騒音・振動研究委員会の幹事としての貢献に対して]

○安 啓一(筑波技術大学) [音声コミュニケーション調査研究委員会の幹事としての貢献に対して]

○山内 勝也(九州大学) [道路交通騒音委員会の幹事としての貢献に対して]

### 1 1. 講習会，講演会及びセミナーの開催

#### (1) 講習会（敬称略）

事業委員会（西村 明委員長）が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。なお，Web 会議システムを利用するオンライン開催で実施した。

ア．「研究・記録のための資料音の録音」（第 174 回技術講習会）

期 日：2020 年 9 月 5 日 会場：オンライン(Zoom)開催

講 師：西村 明(東京情報大学)

受講者数：37名

イ、「すっきり！わかる！音声言語処理と深層学習の最新知識」（第175回技術講習会）

期 日：2020年11月25日 会場：オンライン（Zoom）開催

講 師：小林 彰夫（筑波技術大学），小早川 健（NHK 放送技術研究所），  
藤田 悠哉（ヤフー株）

受講者数：60名

ウ、「防災用屋外拡声システムの性能確認」（第176回技術講習会）

期 日：2020年12月3日 会場：オンライン（Zoom）開催

講 師：佐藤 逸人（神戸大学），松石遼太，栗栖 清浩（TOA（株））

受講者数：4名

エ、「デジタル信号処理の基礎と応用」（第177回技術講習会）

期 日：2020年12月7日～8日 会場：オンライン（Zoom）開催

講 師：及川 靖広（早稲田大学）

受講者数：22名

オ、「総ざらい！深層学習に基づく音声合成を概観するー基礎から最新動向までー」（第178回技術講習会）

期 日：2020年12月4日（1月29日に変更） 会場：オンライン（Zoom）開催

講 師：齋藤 大輔（東京大学）

受講者数：23名

カ、「音響研究・オーディオ開発における DAW ソフトウェア「REAPER」の活用術」（第179回技術講習会）

期 日：2020年12月23日 会場：オンライン（Zoom）開催

講 師：亀川 徹，丸井 淳史（東京藝術大学）

受講者数：32名

キ、「データフロー言語 Pure Data によるサウンドプログラミング」（第180回技術講習会）

期 日：2021年2月25日～26日 会場：オンライン（Zoom）開催

講 師：小泉 宣夫（東京情報大学）

受講者数：7名

ク、「新しい道路交通騒音の予測モデル ASJ RTN-Model 2018」（第22回音響技術セミナー）

期 日：2020年10月27日 会場：オンライン（Zoom）開催

講 師：岡田 恭明（名城大学），安田 洋介（神奈川大学），坂本 慎一（東京大学），  
一木 智之（ニューズ環境設計），穴井 謙（福岡大学），  
山内勝也（九州大学）

受講者数：33名

(2) サマーセミナー（敬称略）

COVID-19 の感染防止のため中止した。

## 1 2. 出版事業

(1) 出版委員会（大川 茂樹委員長）に属する3つのシリーズ編集委員会，音響テクノロジーシリーズ編集委員会（飯田 一博委員長），音響入門シリーズ編集委員会（大川 茂樹委員長），音響サイエンスシリーズ編集委員会（蘆原 郁委員長）において，それぞれ企画内容について審議した。

(2) 音響学講座編集委員会（安藤 彰男委員長）において，それぞれの巻について，編集作業を進めた。なお，全10巻のうち，次の1巻を刊行した。また，刊行済みの音響学講座は5巻となった。

・騒音・振動（音響学講座4）（2020/04/13 発行）

(3) 音響用語辞典編集委員会(鈴木 陽一委員長)において、用語の選定作業を行い、編集作業を進めた。

### 1 3. 学会電子化推進に関する活動

広報・電子化委員会(荒木 章子委員長)において、Web、メーリングリスト、Facebook 及び研究発表会会場における広報活動等、各種会員サービスを行った。なお、オンライン開催で実施した2020年秋季研究発表会において、遠隔開催実行委員会に参画し、運営に協力した。

### 1 4. 学会活性化、若手育成に関する活動

活性化・若手育成委員会(峯松 信明委員長)において、ビギナーズセミナーの開催、学生・若手フォーラムの活性化を図る活動を行った。

### 1 5. 財務に関する活動

財務委員会(安藤 彰男委員長, 亀川 徹(会勢拡大担当), 廣江 正明(産業連携担当), 戸井 武司(広告担当))において、賛助会員、広告の増加策等会勢の拡大につながる諸策を実施し、財務の安定にむけた活動を行った。

- ・ 賛助会員入会のメリットの整理・追加を行い、入会の勧誘を行った。また、研究発表会ポスターセッションの空きコマを有効に活用するため、賛助会員にポスター展示の希望を募り、実施した。
- ・ 2021年春季研究発表会において、当学会賛助会員と主に博士後期課程在学の学生会員を対象として情報交換を目的とする交流会(オンライン開催)を実施した。

### 1 6. 寄付制度と学会活動活性化

2020年度会費の請求に併せて名誉会員、終身会員、正会員にご寄付を募った。なお、拠出寄付金は、学会活性化に関する事業に資する目的で学会活性化積立資産として積み立てた。

### 1 7. 通常総会の開催

第54回通常総会は、2020年5月16日、オンライン開催により実施した。  
なお、出席者は、122名(うち議決権行使書の提出による出席60名)であった。また、オンライン開催の実施に関し、広報・電子化委員会でシステムを選択し実施した。

### 1 8. 理事会、役員会並びに委員会活動

#### (1) 理事会

2020年度理事会は、2020年8月を除く毎月、計11回開催した。なお、理事会は全てオンラインで開催した。

#### (2) 役員会

2020年度役員会は、2020年8月を除く毎月、計11回開催した。なお、役員会は全てオンラインで開催した。

#### (3) 企画委員会

2020年度企画委員会(坂本 慎一委員長)は、2020年8月を除く毎月、計11回開催した。企画委員会は、対面とオンラインを併用して開催した。

#### (4) 編集委員会

2020年度編集委員会(菅木 禎史委員長)は、2020年5月、7月、9月、11月、2021年1月及び3月の計6回開催した。なお、編集委員会は全てオンラインで開催した。

#### (5) 学術委員会

2020年度学術委員会(荒井 隆行委員長)は、2020年6月、9月、11月、2021年3月の4回開催した。なお、学術委員会は全てオンラインで開催した。

(6) 研究発表会準備委員会

2020年度研究発表会準備委員会(岩谷 幸雄委員長)は、研究発表会の開催方法がオンラインとなったため、開催できなかった。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、6月、11月の2回開催した。

(7) 広報・電子化委員会

2020年度広報・電子化委員会(荒木 章子委員長)は、2020年5月、6月、7月、11月、2021年3月の5回開催した。

(9) 事業委員会

2020年度事業委員会(西村 明委員長)は、2021年3月に開催した。

## 19. 他学協会等からの共催等依頼

区分	件数	摘要
共催	2件	(一社)日本機械学会ほか
協賛	27件	(公社)日本騒音制御工学会ほか
後援	3件	(一社)日本建築学会ほか
計	32件	

## 20. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	2020年度			参考	
	2020. 4. 1 現在数(A)	2021. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2020. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	4	5	1	4	1
終身会員	23	23	0	23	0
正会員	444	437	△7	440	△3
学生会員	138	147	9	141	6
(合計)	609	612	3	608	4

(2) 東北支部

会員種別	2020年度			参考	
	2020. 4. 1 現在数(A)	2021. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2020. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	4	4	0	4	0
終身会員	17	18	1	16	2
正会員	117	105	△12	117	△12
学生会員	69	81	12	68	13
(合計)	207	208	1	205	3

(3) 東海支部

会員種別	2020年度			参考	
	2020. 4. 1 現在数(A)	2021. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2020. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	22	21	△1	20	1
正会員	269	258	△11	266	△8
学生会員	63	70	7	65	5
(合計)	354	349	△5	351	△2

(4) 九州支部

会員種別	2020年度			参 考	
	2020. 4. 1 現在数(A)	2021. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2020. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	0	1	1	0	1
終身会員	9	9	0	8	1
正 会 員	152	143	△9	153	△10
学生会員	77	53	△24	67	△14
(合計)	238	206	△32	228	△22

(5) 北陸支部

会員種別	2020年度			参 考	
	2020. 4. 1 現在数(A)	2021. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2020. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	1	2	1	1	1
正 会 員	73	68	△5	70	△2
学生会員	68	63	△5	71	△8
(合計)	142	133	△9	142	△9

2 1. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2020年4月、6月、11月、12月、2021年3月の5回開催。

イ. 総会・研究会・支部研究発表会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2020. 4. 27	オンライン(ニコニコ動画)	2019年度事業実施・決算報告 2020年度事業計画・予算審議 オンライン出席22名, 委任状139 通計161名(定足数96名)
講演会・見学会	2020. 4. 27 予定	中止	非常事態宣言下につき
秋季講演会	2020. 10. 15	オンライン(Zoom)	兵庫県立芸術文化センター舞 台技術部 金子 彰宏氏による 講演 参加者35名
秋季見学会	2020. 10. 15	オンライン(Zoom)	音響研究室中継リレー(産総研 →和歌山大→京都市芸→立命 館大→大阪大) 参加者35名
第23回若手研究者 交流研究発表会	2020. 12. 5	オンライン(Remo)	ポスターセッション, ポスター発 表38件 参加者104名

(2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は2021年2月にオンラインで、開催した。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2020. 4. 15	東北大学工学部	
2020年度電気関係学 会東北支部連合大会	2020. 8. 27	書面開催	発表件数219件, セッション数 35, 展示企業(団体)9社, 賛助 企業7社

東北大学電気通信研究所一般公開 2020(後援)	2020. 10. 10 ～ 11	オンライン開催	
第3回東北地区音響学研究会	2020. 11. 28	オンライン開催	発表件数 20件 参加者 35名
令和3年度東北地区若手研究者研究発表会(共催)	2021. 3. 5	書面発表	東北地区若手研究者研究発表会主催, 日本音響学会東北支部ほか7学会共催 講演件数 138件
令和3年度東北地区若手研究者研究発表会音分野オンライン発表会	2021. 3. 6	オンライン開催	発表件数 17件 参加者 36名

ウ. 若手研究者優秀論文賞

東北支部電気関係学会支部連合大会, 東北地区音響学研究会及び東北地区若手研究発表会音分野若手オンライン発表会から, 所定の手続きにより審査を行った。その結果, 電気関係学会東北支部連合大会から2名, 東北地区音響学研究会から2名及び若手研究者研究発表会音分野若手オンライン発表会から2名の受賞者を決定した。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2020年4月, 2020年12月, 2021年3月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
2020年度支部総会・講演会	2020. 4. 8	—	書面・電子メールによる評決
第24回東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会	2020. 8. 1	名古屋大学(オンライン開催)	講演件数 43件 参加者 190名
電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会(後援)	2020. 9. 3 ～ 4	オンライン開催	基調講演 1件, 特別講演 12件, 一般講演 346件 参加者 584名 音響学会関連発表 7件
建築音響研究会(後援)	2020. 10. 16	名城大学/オンライン開催	講演件数 4件 参加者 27名
超音波研究会(後援)	2020. 11. 5	愛知工業大学八草キャンパス	講演件数 7件 参加者 31名
2020年度技術講習会	2020. 12. 3	オンライン開催	参加者 42名
東海地区音声関連研究室卒業論文(中間)発表会(後援)	2020. 12. 12	オンライン開催	講演件数 55件 参加者 82名
2020年度優秀発表賞表彰式	2020. 12. 15	ウイנקあいち/オンライン開催	

※支部総会と同日開催を予定していた講演会は開催中止。

5月開催予定の騒音・振動研究会は開催中止。

秋ごろ開催予定であった支部見学会は開催中止。

建築音響, 騒音・振動関係若手研究発表会は休会。

ウ. 学生会員発表奨励制度

東海支部が主催又は共催した修士論文中間発表会, 電気関係学会支部連合大会において優秀な講演を行った学生会員を対象として表彰した。今年は発表奨励9名, 優秀発表賞5名であった。

エ. 2020年度学会活動貢献賞

学会活動貢献賞は, 東海支部が行う学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の支部会員に贈呈するもので, 2020年度学会活動貢献賞は2名選定した。

(4) 九州支部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2021年3月に開催(オンライン会議)。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
第73回電気・情報関係学会九州支部連合大会	2020. 9. 26 ～ 27	オンライン開催	共催 講演件数 350 件, 参加登録 546 件 うち音響関係 3 件
第14回学生のための研究発表会	2020. 11. 21	オンライン開催	主催 発表件数 18 件 参加者 48 名
アコースティックブートキャンプ(ABC-Q)	2020. 11. 22	オンライン開催	主催 参加者 一般参加学生 21 名, オンデマンド視聴登録者 4 名, TA 院生 11, スタッフ 11 名 技術研修「スマートフォンでの環境騒音測定」高田 正幸先生(九州大学)
電気音響研究会	2020. 12. 14	オンライン開催	共催
講演会	2021. 3. 27	オンライン開催	主催 演題「物理モデル音源でメロディを奏でよう」 講師 鮫島 俊哉先生 参加者 34 名
支部総会	2021. 3. 27	オンライン開催	主催

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会, 研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。2020年度の表彰者は3名であった。なお, 表彰式は, 2021年3月27日に陳実施した。

エ. 支部学会活動貢献賞

部学会活動貢献賞は, 九州支部の活動の活性化に多大な貢献が認められるものを表彰するもので, 2020年度は, 1名の受賞者を決定した。

(5) 北陸支部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2020年4月, 2021年3月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2020. 4. 4	金沢大学サテライト・プラザ (COVID-19 の影響によりメール審議)	令和元年度事業報告・決算報告 令和2年度事業計画・予算 4月10日までに回答がない場合は承認とみなすとして, 4月4日にメール配信
2020年度電気関係学会北陸支部連合大会	2020. 9. 13	オンライン開催 (福井大学を予定)	音波・音響関係部門 講演 11 件 学生優秀論文発表賞 6 件
聴覚/電気音響/BEM研究会	2020. 11. 20	オンライン開催	講演 25 件(うち招待講演 3 件) 参加登録 111 名
北陸地区学生による研究発表会	2021. 3.	COVID-19 の影響により中止	

## 事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。